

■市場予想を下回った米CPI(消費者物価指数)

先週10日に発表された米CPIは前年同月比4.9%上昇と、市場予想(同5.0%上昇)を下回り、2021年4月以来2年ぶりの低い伸びとなりました(図表①)。変動の大きいエネルギーと食品を除いたCPIコアは同5.5%上昇と市場予想通りでしたが、3月の同5.6%上昇から小幅ながらも伸びが鈍化しました。

CPIの発表を受け、10日の米国債市場では10年国債利回りが前日の3.51%台から3.44%台へ5営業日ぶりに低下して取引を終えるなど、金利低下が進みました。FRB(米連邦準備制度理事会)が6月のFOMC(米連邦公開市場委員会)で利上げを見送るとの期待が高まった模様です。

一方で、金融システム不安に伴う信用収縮や債務上限問題等から米国景気が今後減速・後退するとの懸念も根強く、米金利・米国株とも当面は揉み合いが予想されます。

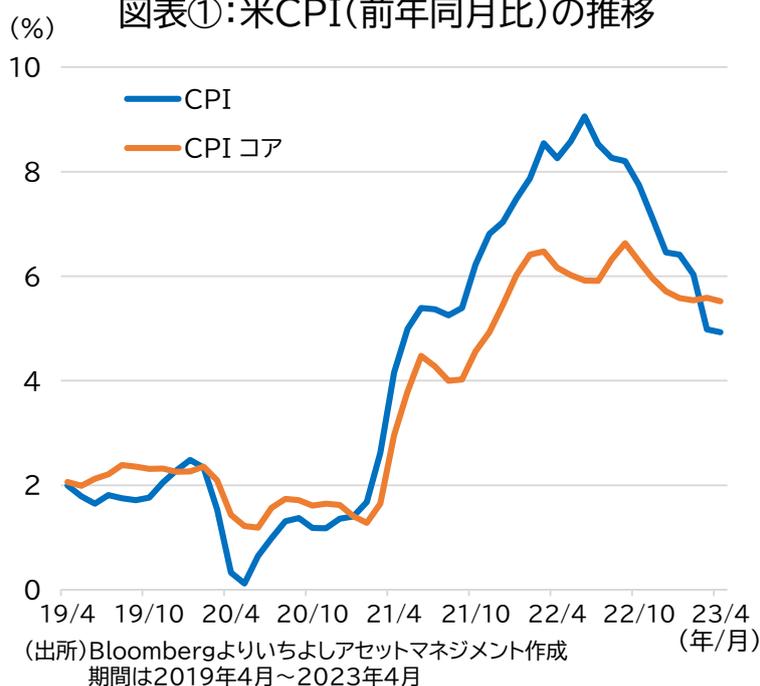
■海外投資家の買い越しが続く日本株

不透明感が強い米国株に代わる海外マネーの受け皿の一つとなっているのが日本株です。図表②は海外投資家による日本株の売買動向(現物+先物)と日経平均株価の推移を表しています。4月第2週(4月10~14日)に現物株のみで約9年半ぶりとなる買い越し額1兆円を記録し注目を集めました。5月に入っても海外勢による日本株買いが続いています。JPX(日本取引所グループ)が11日に発表した5月第1週(1~2日)の投資部門別売買動向によると、海外投資家は現物と先物を合わせ4,607億円日本株を買い越し、5週連続の買い越しとなりました。引続き日本株の上昇を支えていることがお分かりいただけると思います。

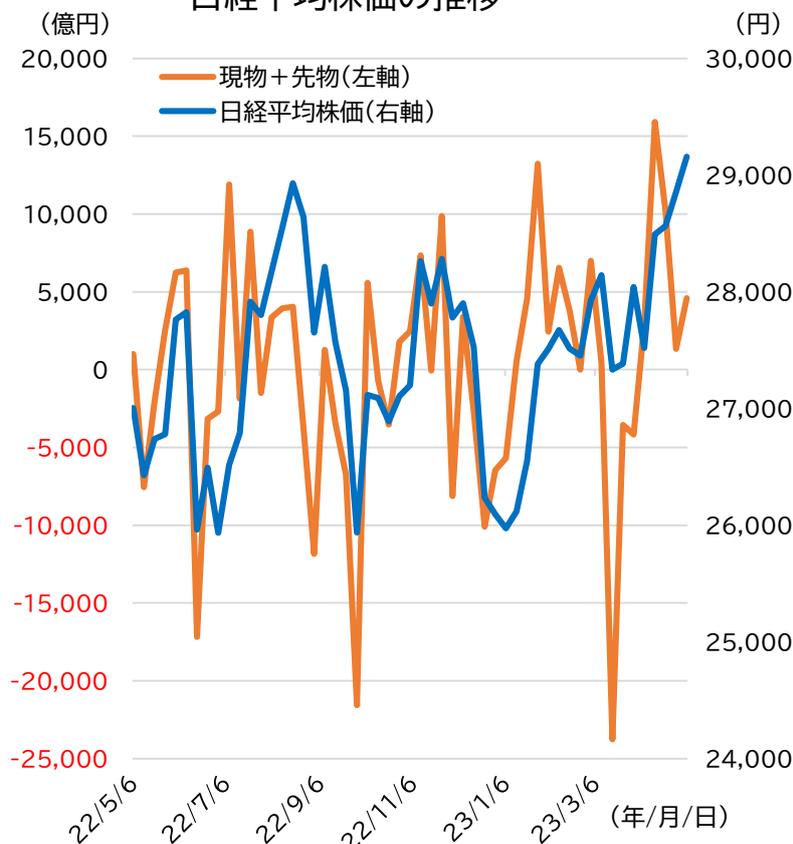
東証(東京証券取引所)による低PBR銘柄への資本効率改善要請や、それに呼応した各上場企業の取組み、そして日銀による金融緩和政策の維持等を背景に、日本株を再評価する動きが海外投資家の間で広がっていることがその理由です。

今後は上述した要因に加え、決算発表を通じて利益成長の見通しが確認されれば、海外マネーの更なる流入が期待出来、日本株の一段高に繋がると予想されます。

図表①:米CPI(前年同月比)の推移



図表②:海外投資家による日本株売買動向と日経平均株価の推移



※ 現物は東証、名証の売買代金の差額合計。
先物は日経225先物、日経225mini、TOPIX先物、ミニTOPIX先物、JPX日経400先物、マザーズ指数先物の売買代金の差額合計。
※ 期間は2022年5月6日~2023年5月2日、週次。
(出所) Bloomberg、JPXのデータを基にいちよしアセットマネジメント作成